made by Japanese

上海レポート

ちょっとちがうぜ中国で農業

土下信人（つちした・のぶひと）

1949年愛知県生まれ。95年、沖縄で㈲土下を設立。組織培養技術を活用した苗生産・販売を中心とした農業のコンサルタント業務を開始。上海で組織培養施設への指導を行ない、2003年同地で組織培養会社、上海百奥微繁植物有限公司を設立。HP『大きな国で』を開設。
http://blog.livedoor.jp/touxia/

第55回　地形・気候を生かした雲南省の農業

雲南の地理条件

雲南省は、最大標高差6000m、平均標高2000mという山岳地域である。面積は日本とほぼ同じだが、その94%は山岳部・高地で、省人口4500万人のうち80%近くは山岳部や高地に住む。耕地面積は4%しかない。こうした地理条件は雲南省の開発が進まなかった理由の一つだったが、様相が変わりつつある。

雲南省はいくつかの国と国境を接している。国境線の距離は、ミャンマーとは約2000km、ラオスとは約750km、ベトナムとは約1300km。雲南省からタイまではわずか200kmしかない。中国にとっては安全保障上、重要な戦略的地域でもある。

この地域では1990年代にアジア開発銀行が中心となり、メコン川流域開発計画が進められた。参加国は、中国（雲南省）、ミャンマー、ラオス、タイ、カンボジア、ベトナムの6カ国。総面積260万㎢、人口約3億人を有する同地域で進められたこの計画がきっかけとなり、雲南省の経済的な位置付けが定まってきた。

現在、昆明（中国雲南省）～バンコク（タイ）間に開通した高速道路1855km（昆明～上海間の道路距離は2400km）はほとんど完成し、タイと雲南省のつながりがより密接になっている。経済交流も活発になってきた。昆明からヤンゴン（ミャンマー）への鉄道1910kmも建設中で、東南アジアの経済発展にも絡むようになった。雲南省の2008年のGDP成長率は11%、固定資産投資は前年比26%増と比較的安定した経済成長を維持している。雲南は「内陸部の深圳（しんせん）」とも呼ばれている。

多様な農業で東南アジア進出

雲南省にはインド大陸がユーラシア大陸にぶつかったときにできた数多くの渓谷と河が存在する。複雑な地形は1万8000種以上の植物を生み出し、雲南省は「植物の宝庫」ともいわれている。その遺伝資源は経済活動にも生かされている。中国医学と結びついた漢方薬の原料供給、キノコ産業の発達とマツタケの輸出、中国の国内生産量のうち60%近くを占める花卉の生産、気候を生かしたワサビやコーヒー豆の生産……。タバコの生産は全国1位、天然ゴムの生産は海南島に次いで全国2位、茶葉やサトウキビの生産量も全国上位にある。

雲南省の農産物はこれまで沿岸部への出荷が大きな比重を占めてきた。しかし、タイやベトナムなどが経済発展する中で東南アジアへの輸出に視点が移りつつある。花は、タイ、マレーシア、シンガポールまで輸出されており、ジャガイモもベトナムに大量に輸出されている。雲南省の気候条件と複雑な地形を生かした多様な農業が生まれているのだ。

今年6月に雲南で交易会が開かれたが、農業部門への投資は、農産品や竹の加工、コーヒーの粉末加工、レモンやインドセンダン（ニーム）の生産加工など多岐に渡り、総投資額は10億ドルを超えた。雲南は農業を媒介に急速な展開を始めている。



雲南省にあるタバコの生産農場。